

## 学習者 からの 相談

# 受ける場合に 心しておく点は!!

日本語教室のボランティアをしていると、学習者から様々なご相談を受けます。東京都庁内の「外国人相談」で相談員を務める高橋敬子<sup>きょうこ</sup>さんに、相談について色々とお話をうかがいました。高橋さんはTNVN会員の社会福祉法人さぼりと21(品川区)の事務局長も務めています。

**Q** 都庁にも様々なご相談が寄せられると思いますが、その内容にも変化がみられますか。

日本にお住まいの外国の皆さんは、何かの制度がスタートしたり変更したりという場合には非常に敏感に反応されます。例えば、「国勢調査が行われる」「子ども手当が支給される」「ゴミ捨てのルールが変わるらしい」というような情報を得られても、自分自身が何をどうしたらよいかは曖昧で、とにかく情報の確認をしたい、というケースがよく見られます。震災の時も、ご自身の日々の生活に関わりがありそうな情報が報道されると、お問い合わせがぐっと増える状態でした。「変化」という点からですと、悲しいことですが、DV被害のご相談が増えているのが現状です。

**Q** 皆さんにはご相談する先がお近くにない、ということでしょうか。

相談先がないというより、身近な方には言いたくない、友人を面倒な話に巻き込みたくない、というお気持ちから、あえて都庁に相談されるようです。個人的な問題であればなおさら、「信頼できるけど、ちょっと遠い存在」である都庁の相談室がご都合がいいようです。市区町村の相談

窓口の存在を知りながらも、相談内容によってはやはり人物が特定されにくい相談先にしよう、と思われるようです。都庁には、中国語やハングル対応の相談員もいますが、あえて母語でなく英語でお電話してこられる方もいます。

**Q** 「相談」を受ける場合に心しておいた方がいい点を教えていただけますか。

私自身、常日頃から、自分の尺度でお話を聞いてしまわないようにと気をつけています。例えば、先ほどあげたDVのケースでも、私達は何となく被害者は「女性側」「外国人側」と思い込んで話を聞いてしまいかねません。それが、お話を見えにくくしてしまうこともあります。また、相談者が安心してお話できるように一生懸命に耳を傾けるうちに、そのお話が100%真実だと鵜呑みにして対応してしまい、とるべきアクションを誤ってしまうこともあります。

**Q** 日本語教室のボランティアに何かメッセージがあればお願いします。

ボランティアの皆さんは、外国人をその地域や日本社会につないでくださる、なくてはならない存在だと思っています。そこ

には信頼関係ができています。それだけに、皆さんの一言一言が、外国人には非常に重みがあるものだという事、よく理解しておいて下さい。信頼する日本人の、「絶対大丈夫。あの人もできたから」というような一言が、相談者には最も「正しい」情報となってしまいます。私共にご相談がきて、やっと公的な所管部署につながった際に、相談者の外国人が担当者の話を信用しない事もままあります。

異国に暮らす人間は、とくに在留資格により、できること、できないことが異なります。同じ「ような」ケースでも、お一人お一人の細かな状況は異なり、導かれる結論も違う可能性があることを、心に留めておいていただければと思います。

多くの場合、相談者はゆっくりとお話をする中で、ご自身でお話を整理し、解決されていきます。皆さんには、ぜひ安心して話のできる聞き手になっていただきたい。複数の選択肢を示し、最後の選択はご本人に委ねるなどして、相談者ご本人が自ら判断できるようお近くにいていただければと思います。

—貴重なお話、ありがとうございました。

(編集担当)

### ■東京都外国人相談

9:30~12:00 13:00~17:00

- 英語/月~金 03-5320-7744
- 中国語/火・金 03-5320-7766
- ハングル/水 03-5320-7700

# あなたは日本語ボランティア？ それとも日本語教師？ (No.80) を読んで

寄稿

「話しましょう、日本語を」(練馬区) 代表 坂本 喜久子

今回の寄稿に対する反論を、『日本語がゼロに近い人に日本語を教えるために、プロの力を借りるべき』という点から始めさせてください。

私の知る限りでは、日本語を勉強したい方たちの、どなたもが、時間的、経済的に「プロの学校」へ行くゆとりがあるわけではありません。これは、社会人だけでなく、就学生、留学生についても言えることです。

生活のために働かなければならない、小さい子供がいても保育園では預かってもらえない、結婚相手の親の介護をしなければならないなどの方たち、また「残留孤児」だった方たちや、在日の年配の方たちなどが、頼れるところは、日本語ボランティアの教室でした。いまでもそうです。本来なら、ヨーロッパのいくつかの国のように、政府が自国の言語を無料で教えるべきですが、日本ではまだ実行されておられません。

日本語ボランティア教室に学習者が来る『目的は日本で快適な生活をするため』と寄稿文にありました。もっと切実な方たちが多いのではないのでしょうか。この23年間に、ボランティア日本語教室でお会いした方の多くは、この社会で生活するためには、日本語の習得が不可欠だと考えられている方たちでした。

『日本語がゼロに近い人に日本語を教えるためには、プロの力を借りるべき』とのことですが、私たちの教室にも今まで数多くの日本語ゼロの方たちが見えました。その中には、いままで、母国でも、「学校」という所に行ったことのない方、つまり、母国語の読み書きのできない成人が10人以上おられました。そういう方たちを、「プロの学校」が引き受けてくださったことがあったのでしょうか。メモをとるといってもできない方たちでした。中には、こういう方もありました。生活するために、日本語はある程度話せるようになり、ひらがなの文字一つ一つは読めるのですが、ひらがなの文章をみて

も、意味がとれないのです。でも、いつも笑顔で教室に飛び込んで来られました。

私たちボランティアは、どの人にはどのように日本語を教えたらよいか、どうしたら、相手の希望に添えるか、答えられるかを考えながら、積み上げ式の日本語を、計画を立てて教えています。日本語が下手なばかりに、日本語がきちんとできないばかりに、働く場所で「バカ」呼ばわりをされた。悲しい、くやしい、早く日本語が上手になりたいという方たちと文字通りスクラムを組んで頑張っています。一人一人に時間がかかりますが、それが出来るのがボランティア日本語教室ではないでしょうか。

ボランティア日本語教師は、表向きの評価はされていないでしょう。しかし、評価しているから、学習者がボランティア教室に来るのではないのでしょうか。そうして、評価しているから、私たちが「せんせい」と呼んでくれるのではないのでしょうか。私たちはあらゆる面で教えを受ける方を「先生」と呼びます。「私たちボランティア」から日本語を教わっていると学習者が考えて「先生」と呼んでくれるというのなら、「先生」とよばれるのにふさわしい「日本語ボランティア」にならうではありませんか。

一言付け加えさせていただければ、日本語ボランティア歴、10年以上の方も、いわゆる「教師」の資格を持っている方も、ボランティア教室にはたくさんいらっしゃいます。日本語のボランティアを始めたばかりの方たちも一生懸命に勉強しながら「日本語を教えて」おられます。目的はただ一つ、学習者が日本の社会で、自立して、明るく生きていけるように、いっしょに努力しようということです。「日本語ボランティア」か「日本語教師」かなどと議論する時間が、正直に申し上げて、もったいないです。

# みんなでワイワイ 「カタカナパニック」

紙上  
講座

日本語教師 金子 広幸



皆さんが外国人学習者と活動をするとき、文字はどのように扱っていますか。

「仮名が使いこなせるようになるまで時間がかかって大変」という声をよく聞きます。でも、それは学習者が自分のペースでやりたいと思っていることを無理に交流活動の中でやろうとしているではありませんか。だとしたら、スタディーキットを渡して、学習者自身が好きな時に好きな場所で学べるようにし、交流活動では「読んでわかること」だけチェックするというのはいかが？

今回は、私がよく初級のクラスでしている「カタカナパニック」という活動をご紹介します。A3の紙に48等分の折り目をつけて、カタカナの「ア」から「ン」まで45文字と、濁点「ん」、半濁点「゜」、長音記号「ー」をその升目に書きます。これを原紙にして人数分コピーし、各自48枚のカードを作って、ワンセット持ってもらいます。これでスタディーキット（勉強の道具）の出来上がりです。

これからご紹介する活動は、1対1でも、また1対多数でもできる活動です。

まずは文字を選ぶ練習から始めてみましょう。机の上いっぱいアットランダムに並べてもらい、指導者が「ア」と言ったら、「ア」のカードを拾うというやり方です。複数参加のグループなら、競争心も沸い

て盛り上がります。カタカナが苦手な人は家でこっそり練習してくるかもしれません。慣れたら「アメリカ」「オレンジ」など身近な言葉を選んでみましょう。

散らばったカードの中から、必要なカードを選んでいくわけですが、はたで見ている指導者側にもいろいろな発見があります。「ム」や「マ」はよく見るとそっくりだし、「ケ」「ク」「タ」の区別が難しく、学習者の気持ちも理解できます。活動は10分で終わり。おもしろく盛りあがったら「続きは明日!」と「お預け」。楽しかった思い出が学習を促進させてくれると私は信じます。

2日目は、数語をつなげてみましょう。「首都シリーズ!」と言って、「ソウル、ヤンゴン、ブラジリア!」と、クラスの学生の国の首都名をすべてつなげて言うのです。スリランカ出身の人がいたら大変!首都はスリジャヤワルダナプラコッテなのですから!そのうちに、2回使わないとならないカードも出てきて、学習者らは大混乱。お隣のカードを借りたりすることもあるかもしれません。でもこのパニックはちょっと楽しいものです。テストではないので、隣近所に手伝ってもらいながら、ワイワイやりたいですね。

実はここまではウォーミングアップ。ここからが本番です。

机を移動して、輪になって座ります。「はじめの人」を決めたら、その人から順番に自分のカード群の中から、自分の順

番のカードを1枚取る活動を行います。例えば、「パイナップルジュース」だったら、「はじめの人」は「ハ」と「°」のカード、次の人は「イ」、その次の人は「ナ」、次が「ツ」…と挙げていくのです。自分が何番目に当たるかは、いわゆる「モーラ」の感覚が身につけていないとわかりません。促音の「小さいツ」や「長音」の「ー」も1モーラと数え、「ジュース」の「ジュ」は「シ」「ん」「ユ」の3枚のカードを選んで「ジュ」という1モーラです。つまりこの活動では1人が受け持つ1単位が1モーラです。

ここでも「パイナップルジュース、チーズバーガー、アイスクリーム」など、いくつかのカタカナの言葉をつなげて提示し、参加者にまるでマズゲームのようにカードを一斉に挙げてもらうのです。初級、上級が混ざって皆で活動するときなどは、カタカナの言葉を長くして「ドメスティックバイオレンス」とか「セクシャルハラメント」というような社会的な言葉も採りあげ、それに訳語をつけて討論するなどの活動もしました。

スタディーキットを個々に持ってもらうことで、書いて確認したり、単調に読んだりするだけの時間が省けます。そしてボランティアの皆さんも、我々日本語教師も、教具が簡単に作れることで、時間の節約にもなるのです。もちろん、これは「ひらがな」にも応用可能です。

アイデア次第で、もっといろいろな使い方ができると思います! みなさん、お試しください。

# 「国際都市おおた」における 多文化共生推進センター (micsおおた)の役割



## 国際都市おおた

大田区は、羽田空港の国際化を契機に、基本構想(2008年10月策定)に掲げる「国際都市おおた」の周知と「国際都市おおた」のイメージを共有、区民への積極的な発信を図るべく、2010年12月に国際都市おおたシンポジウムを開催した。(「国際都市おおた」実現に向けたこれまでのまとめより)

羽田空港の国際化にともなって区を訪れる外国人の増加が見込まれる中、大田区が掲げた「国際都市おおた」像は「外国人が安心して快適に生活できる環境、地域性を備えた都市」であり、その町は外国人に優しいだけでなく、地域に住む多くのお年寄り、子ども達、そしてすべて区民に住みやすいものになるという考えでした。大田区は現区長のもと「観光都市」にとどまらない「国際都市」を目指しています。

## 大田区多文化共生推進センター(micsおおた)

区役所に隣接したビルの1階にある「micsおおた」は、2010年9月に開設

大田区蒲田と聞いて「どこだろう」と思われる方も、NHKの連続ドラマ小説「梅ちゃん先生」の舞台と聞けば、「ああ、そうだったね。」と、思い出して頂けると思います。ドラマではちょっと懐かしい街並みでしたが、私達がお訪ねした大田区役所周辺は立派でモダンな建物が立ち並んでいました。

されました。運営は、「一般社団法人レガートおおた」が区から委託され、多言語相談、通訳、翻訳、大田区初級日本語教室ほか、イベント・講座情報、区内の日本語教室の紹介などを実施しています。

見通しのよい広いスペースに、多くの情報を提供するチラシ、パンフレットが置かれ、来訪者を迎えるスタッフは、きめ細かく素早い対応を行っています。6割のスタッフが外国籍区民です。十分な日本語力のない来訪者には、中国語、ハングル、タガログなど、多言語の対応を準備し、区役所での相談が必要であれば、通訳スタッフが窓口まで一緒に行くという行き届いたものです。言葉が分からないために、たらい回しにされてしまうことはありません。

## 大田区初級日本語教室

区は実態調査から多文化共生を進める上で、もっとも大きな問題を言語問題とし、区内、在住在勤の外国人のために初級日本語教室を主催しています。「micsおおた」に隣接する教室は広く、机、いす、ホワイトボードなどが十分に用意され、学習者は余裕をもって勉強をすることができます。大田区の日本語学習支援が、初級者向けであることは、行政の日本語支援現場への理解を示すものかもしれま

せん。初級者の日本語学習は学習者にとっても支援者にとっても難しいと言われる中、「では、区が引き受ける」という姿勢は、一般ボランティアにとっては励まされるものではないでしょうか。

さらに、区はボランティア団体による19の日本語教室も支援し、在住外国人の方達はほぼ毎日、日本語を勉強することができます。

また、多文化共生の意識を高めるために、「micsおおた」は、多文化交流会を活発に行っています。料理教室、文化紹介など、区民のだれもが気軽に参加し、楽しめる様々の企画をしています。2011年度はおよそ1,100人が参加しましたが、まだ十分とはいえず、今後も継続的な取り組みを続けるということです。多文化共生推進により、豊かな人間性が育まれ、「地域力」が高まるという理念は、すばらしいものだと感じ、少し羨ましい気持ちを持ちつつ、取材を終えました。

(取材 山本英子、岡田美奈子、林川玲子)



# Dさん、P父さん頑張ってる!!

## 区立中学校への入学支援記

「やさしい日本語」(江東区)

岡田 美奈子

### 2012年11月2日(金)

ネパール人のPさんが「娘に日本語を教えて欲しい」と、日本語教室にDさんを連れてきました。Pさんは、流暢な日本語で「6月に娘を呼び寄せた。日本語はゼロ。年齢は14歳半」等と。「Dさんは日本の中学校に入れるはず、その意思があるか」尋ねると「それは知らなかった。行かせたい」との返事。スタッフの一人がその場で江東区の学事課に電話すると、「区立中学校は希望の学年に入れるので、パスポートと身分証明書を持って学事課へ来て」との回答。Pさんに伝えました。

### 11月8日(木)

Dさんの家に電話すると、兄のRさんが上手な日本語で「自分と妹が区役所へ行った。区立D中学校に持っていくように書類をもらったが、中学へは未だ行ってない。お父さんは錦糸町のレストランSで店長をしている。」と。中学の場所も分からず、気後れしているようです。

TNVNのボランティア仲間から「中学校へは付いて行ったほうが良い。就学援助費制度を知らない外国人が多い。どの学年に入るかは本人のプライドもあり、思案のしどころだが、英語と数学が得意なら一つ下で良いかも」等の助言を貰いました。

### 11月12日(月)

錦糸町のS店を訪ねると、繁盛している様子。Dさんに「勉強はとても難しいから、努力が必要」Pさんには「制服、体操服、毎月の給食代など、たくさん要りようだが、大丈夫か」確認すると「大丈夫です」との返事です。

### 11月13日(火)

Dさん、Pさん、私の3人でD中学校へ赴きました。玄関に「ユネスコスクール認定証」の銘板が貼ってあり、幸先よさそうです。

校長先生と副校長先生の面接では「学事課からDさんの話が来ている。うちに入ることはできる。ただ、中国とウズベキスタンの男子生徒

が通学しており、区派遣の日本語教師による取り出し授業を週に4時間受けているが、二人とも学習面ではとても大変な思いをしている。Dさんは、まず日本語を十分勉強して、来年4月から夜間中へ通学するのが良いのでは」という助言も。「先生方には色々苦勞をおかけすると思いますが、Dさんが入学することで学校にプラスになることがきっとあると思うので、ぜひ入れてください」とお願いして、11月15日から入学OKの返事を貰い、3学期が近いこと等から、1年生に入ることにしました。

### 11月15日(木)

3人で中学校へ行くと、担任、学年主任、養護教諭、給食主事に紹介され、健康のことや摂食タブーのことなど丁寧に聞いてくれました。

学校諸費の納入は、とても込み入って分かりにくい内容です。就学援助費の書類も貰いました。これは英語版もあります。学習は19日からということで学校を辞し、砂町商店街へ制服や上履き等を見にいきました。一揃い、冬用だけで6万円以上。

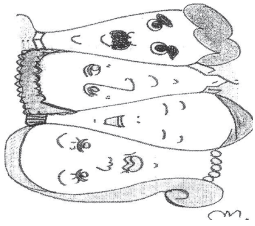
### 11月30日(金)

D中学校から「Dさんの就学援助費申請を手伝って欲しい」との電話がありました。Dさんは元気に通学しているとのこと。申請要項に「2012年1月の住所での課税証明書が必要」とあり、Pさん夫妻とRさんは、当時横浜市南区に住んでいたため、南区役所に証明書の郵送を申し込み、後日それを添えて江東区に申請しました。

### 12月18日(火)

D中学校から「申請が通り、12月から給食費と学用品代が貰えることになった」との報告。DさんとP父さんのこれからの頑張りに期待しています。





■発足して13年目を迎える私達の教室です。  
モットーの「CAN DO」で応えようとがんばっています。

## グッドナイト日本語教室 (江東区)

嶋田 信子

発足して12年間、江東区東陽町の文化センターを根拠地としてきましたが、センターのリニューアル工事で、現在、教室難民です。抽選の結果、確保できたところの施設を使って急場をしのいでいます。教室の場所が一定していないのは大変なのですが、幸い、学習者は、外資系企業で働くIT技術者が大半ですので、メールにMAPを添付すれば、スマホを駆使してやって来てくれます。

震災後は、学習者の職場環境が厳しくなったのか、残業による欠席が目立つようになりました。勉強したい理由は「10年も日本にいて日本語が出来なくて不便」「職場の同僚と日本語で話したい」「会議の席

で日本語がわからない」「仕事で日本語が必要」「周りの人とコミュニケーションをとりたい」などいろいろです。学習者から「フレンドリーな雰囲気」「ニーズにあわせてくれる」「ノウハウが高い」「レベルが自分で選べる」「楽しく学べる」の評価をうけて励まされ、私たちがモットーの「CAN DO」で応えようとがんばっています。

実際は教えながら教わることの方が多く、共に学び、楽しむ場になっています。

「男の料理教室」「スポーツクラブ」「花火大会や地域のイベント」等の穴場の情報提供を心がけていますが、教室の外で仲間作りが出来てリフレッシュ出来るので、うれしいと喜ばれています。

特に、両国の回向院の雅楽鑑賞や、横網審議委員会稽古総見はフリーですし、日本文化に触れてもらいうい機会になっています。学習支援に的を絞った、年間で、正味70時間の授業に加えて、年2回の食事会と、授業の合間の20分ほどのお茶の時間が、国際交流的な役割を果たしてくれています。



伝法院にて。

### 会員団体紹介

# Nice to Meet You

私たちの団体は昨年(2012年)設立20周年を迎えました。20年前、八王子市で増えつつある在住外国人の受け入れ基盤整備の一環として公民館主催で行われた「ボランティア日本語講師養成講座」の卒業生40名が1992年12月に「八王子にほんごの会」を発足させました。その後、紆余曲折は有ったものの現在は会員(先生)数約180名、学習者数約180名を抱える大きな団体となりました。

今でも「日本語支援を通じて、外国人へのお手伝い」をモットーに活動を続けています。

学習拠点(寺子屋と称しております)は10か所有り、異なる曜日、時間に一人対

### nice to meet you

■困っている外国人のお手伝いをしたい

## 八王子にほんごの会 (八王子市)

代表 杉山 光右



一人を基本に学習をしております。通って来る学習者は皆さん、異なる学習希望を持っておりレベルも異なります。その学習者に合った学習内容とする為です。学習者の出入りが激しい為、会員と学習者との最適な組み合わせがなかなか難しく、各寺子屋の責任者の苦勞する点です。

長年にわたる日本経済の低迷のせいか、在留外国人の生活環境は厳しいものが有るようです。言葉が十分通じないがゆえに就業も不安定な状況で、職場の変更や、移転で学習が続けられなくなる事もしばしばです。一時、貴重な戦力としてものではやされた日系中南米の方々も就職難の様です。また、3.11大震災後特に中国、韓国の学習者が多数、母国に戻られ、再来日しませんでした。日本語支援活動を通じて国際社会における日本の立ち位置を垣間見る思いです。

あまり肩肘を張る事無く今後も末永くこの活動を続け、少しでも多くの会員、学習者が日本語学習を通じてお互いが知りあい、この八王子の地で良き隣人として普通に暮らして行く事を願ってやみません。

学習者の声

家族はみんな

日本が大好きです！

レタイタインビン／ベトナム  
弥生日本語の会（文京区）

あさんがたくさん手伝ってくれました。文京区の日本語教室に行って日本語を勉強しました。ボランティアのひとに、日本語のほか生活のことや学校のことをいろいろおしえてもらいました。今は日本語も少しわかるようになって、生活もたのしいです。

去年、ベトナム料理の講習会で先生になって、フォーと揚げ春巻をみんなに教えました。

日本の学校は、先生も教育のプログラム、場所や給食のメニューなどどれもすばらしいです。二人の子どもは学校がだいすきです。

今いっしょうけんめい勉強しています。

日本人はみんなとても勤勉で親切です。

将来、ベトナムと日本の交流がもっと盛んになってほしいとお

もいます。



お茶の時間

ったり、中学校の三者面談に同席したりと学習者の望みを最大限叶えてあげるよう努力しています。又大学院博士課程で勉強中の学習者の博士論文を添削、無事博士号を得、帰国後キャリアアップした学習者が訪ねてきてくれた時は、皆で喜びました。

学習者は、いずれは帰国する方が殆どです。「日本滞在を良き思い出として、日本を好きになって帰ってほしい」というのが私達ボランティアの最大の願いです。そのための努力は惜しまないつもりですが、「弥生」はあくまで春の如く優しく暖かい雰囲気の中で学習者と共に日本語を勉強して行きたいと思っています。日本語は勿論、日本の生活や文化に興味と理解を持ってもらい、楽しく勉強をしてもらう事を心がけ、ボランティアとして、日本語は勿論、「日本」への研鑽と世界各国への興味を持ち続けたいと思っています。



日本は、桜が有名でとても美しいです。空気もとてもきれいです。日本料理はおいしくて、さしみやす

やてんぷらは特別です。体にもとてもいいと思います。日本の神社やお寺は、どれも古くて偉大で美しく、その景色に感動しました。

日本は治安がとても良く安心です。子どもは小学校へ一人でいき、遊ぶのも自由にできます。ベトナムやフランスでは学校の送り迎えをしなければなりません。ここではおとなも子どもも安全にらせて、うれしいです。

はじめて日本に来たとき、日本語がぜんぜんわかりませんでした。子どもの学校や幼稚園でとても困りました。でも先生やおか

この優雅な名称の会は、1994年6月発足、9月から活動を始めた、文京区でのさきがけとなる日本語ボランティアの会です。弥生の地に誕生したこの会は現在も近い会場で和気藹々の雰囲気の中に日本語を勉強しています。

「継続は力なり」この19年の間に学習者は延べ700名を超え、ボランティアも20名を超えました。「来る者拒まず去る者追わず」の姿勢で国・年齢・職業等が様々な学習者を受け入れてきました。基本的には一対一での勉強ですが、1.5時間の勉強の後の30分間の「お茶の時間」、皆で話す機会を設けています。新年会、お花見、年2回の料理会は学習者も楽しんで日本文化に触れてくれているようです。

学習者の日本語経験は様々で、そのレベルにあわせた学習が大事ですが、日本語が段々話せるようになっていく学習者に接する事にやり甲斐を感じています。語学の勉強ばかりでなく日本での生活のアドバイスを求められる事も多々あります。保育園入園手続きを区役所へ行って手伝

ボランティアの声

日本滞在を良き思い出として、日本を好きになって帰ってもらいたい

千葉紀代子 弥生日本語の会（文京区）



### ◎ TNVNの活動が紹介されました

#### ◆財団法人自治体国際化協会

月刊誌『自治体国際化フォーラム』2013年1月号(原稿依頼)

クローズアップNPO・NGO

\*東京都内で活動するボランティア日本語教室・団体のネットワークです

・TNVNの概要

・活動内容(日本語を学びたい人にまなびの場を紹介・機関紙・ボランティア日本語教室での学習支援活動)

・最近の活動「情報はわかりやすい日本語で」

・自治体との協働と今後の抱負

<http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/index.html>

#### ◆東京ボランティア市民活動センター

ボランティア・NPO・市民活動を応援する情報誌

『ネットワーク』2012年10・11月号(取材)

特集:日本にくらす外国人

\*「やさしい日本語・わかる日本語」が災害時の外国人を救う!

・「やさしい日本語」について教えてください。

・「やさしい日本語」はどのように使われていますか?

・TNVNでは「わかる日本語」研究会を発足し活動しているとうかがいました。

どのように取り組んでいらっしゃいますか?

<http://www.tvac.or.jp/manten/list.cgi?i=1&co=1000545>

### ◎「わかる日本語」研究会報告書・冊子をご活用ください。

報告書の紹介・活用について問い合わせを頂いています。冊子は残量が少なくなっていますが、ご入用・希望の方はお知らせください。

日本語を母語としない人へ情報を発信する時、多言語と合わせて「分かり易い日本語」での発

信が望まれます。冊子にある文例を参考に、具体的な情報発信にご活用ください。

冊子の内容はTNVNホームページでもご覧いただけます。ご意見・ご感想・ご提案を、TNVN事務局にいただけると幸いです。

<http://www.tnvn.jp/information/#entry-416>

### column

### 人々の心の痛みを痛感

5年ぶりに岩手に住む妹の所へ遊びに行ってきました。薪を燃やす暖炉の暖かさにホッとした懐かしい気分を味わいましたが、山間部にあるこの町にも、沢山の仮設住宅が並び、千人ぐらいの人達が暮らしているようでした。

次の日、海沿いに気仙沼から南三陸町へと温泉に行く途中に見たものは、かつて、住宅地や、商店街だった所は家の土台だけが残り、ビルは鉄骨だけを残して跡形も無くなって、寒々とした更地があるだけでした。

何度もニュースで見た陸地に乗り上げた漁船は、今も動く事無く地面にくいこみ、見上げるほどのこの大きな船体を運んだ津波の大きさにただ恐怖を感じました。

山沿いに車を走らせると町並みが揃い、海側に行くと更地が何処までも続き、海から川から

と津波が押し寄せた場所の明暗がはっきり分かり怖さが伝わりました。

復興を願う看板や旗などをあちこちで見ました。また、住む人のいない場所で、復旧作業に働く人たちのために仮小屋でお店をだしているのも見ましたが、とても淋しい風景でした。

報道でしか分からなかった事実が、今もそのままの状態であったことが、まだまだ戻る事の出来ない生活に、この地に立つて本当によくわかり、人々の心の痛みを痛感いたしました。(大木)



TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

### 東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

#### ◆日時：毎週金曜日

第1、第3 金曜日 / 午後2時～4時

第2、第4 金曜日 / 午後2時～6時

第5 金曜日 / 休み

#### ◆場所

東京ボランティア・市民活動センター

JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・

大江戸線)出口 B2b) 飯田橋駅下車

セントラルプラザビル 10F ロビー

#### ◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフが応えています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えています。ご意見もお待ちしております。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1

東京ボランティア・市民活動センター

メールボックス No.4

● TEL : 03-3235-1171

(呼出: 金曜日活動時間帯のみ)

● FAX : 03-3235-0050

● E-mail : webadmin@tnvn.jp

● URL : <http://www.tnvn.jp/>

● 郵便局払込

口座番号 : 00100-1-719259

加入者名 : 東京日本語ボランティア・ネットワーク

● 会員数 (2013年11月9日現在)

正会員 : 84団体、団体協力会員 : 2団体

個人協力会員 : 19名、賛助会員 : 4団体

● 編集 / 大木千冬、岡田美奈子、小川伶子、

梶村勝利、床呂英一、林川玲子、山本英子

● レイアウト / 鶴田 環恵